

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6年 3月27日

事業所名 放課後等デイサービス クックルームとうじん

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	33%	67%	外での活動を取り入れたり個室を利用するなど工夫している。	事業所の面積は限られているので利用人数が多いときは、それぞれの発達状況によって活動の内容を大まかに分けるなどして、どのお子様でも参加しやすいようにエリアを分けています。
	2 職員の配置数は適切である	67%	33%	職員の配置数は満たしているが、ご利用者が多い時は安全に楽しく過ごせる活動を考え取り入れられている。	利用人数によっては支援職員が少ない時もあるが、活動内容を見直して年長者が年少者に簡単な勉強を教えたり協力して制作するなどの活動を取り入れている。同時にお互いの発達支援につなげています。
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	100%	0%	取付式のスロープやトイレ内のステップやアームなど配慮している。	建物の都合上、脱着式のスロープを使用している。歩行が不安定なお子様には安全であり、室内のバリアフリーに配慮している。今後も環境を工夫して安全第一を心がけていきます。
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	33%	67%		職員が同時に集まって意見を出し合うことが難しいが、メールや紙面等で共有している。今後は定期的に職員が参画できるようにしていきます。
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	83%	17%	アンケート結果をもとに避難訓練等のイベント周知のため写真を配布するなどしている。	評価表、保護者向けアンケート結果はすべて検証し、できる限りご意見を受け止めて利用しやすい事業所を目指していきます。
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	83%	17%		ホームページや会報は定期的に更新したり公開しています。職員にも十分な周知を図っていきます。
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	0%	100%		これまで大きな事故や問題はなかったが、理事会に課題を挙げることで第三者の評価を受け職員間のハラスメント等の改善につなげていきます。
8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%	0%	職員内で経過等話し合い、分析している。	研修委員を選出し、年間計画を作成したうえで実施している。職員が参加しやすいようにウェブサイトを使用したり、研修を受けた後に伝達講習をするなどして職員の資質向上を目指しています。	
適切な支援の提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%		定期的なアセスメントと支援計画作成、モニタリング等を実施してサービス支援計画を作成しています。ご利用者様にご家庭やご自身の変化があった場合は常に最新の情報を把握し考慮しています。
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	83%	17%		お子様の発達状況を十分に把握することで標準化されたもの以外に支援に必要なアセスメントツールを参考にしている。今後も他の職員の理解と周知を進めていきます。
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	67%	33%	様々なプログラムに参加できるよう工夫している。	お子様の発達状態に基づき、職員が協力して楽しめる活動内容を考案しています。
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	67%	33%		活動の内容で戸外活動等については様々な制限があるが、職員のアイデアやイベントを取り入れることで、これらの活動を充実させています。
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	100%	0%		職員が季節に合わせた外出やイベントへの参加等利用時間に合わせた活動を計画し実施しています。
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%	すべての職員で支援内容、活動が共有できるように確認している。	引き続きご利用者、お一人おひとりに合った活動を作成し実施していきます。
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100%	0%	ほぼ毎回できるようにして実施している。	連絡調整、打ち合わせは欠かせないので今後も続けていきます。
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	83%	17%	気になった言動等細かく記録している。	毎日の記録を参考にお子様の課題を職員間で共有し対応を話し合っています。
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%	0%		今後もよりわかりやすい支援ができるように、記録の仕方や支援者への周知理解につなげられるように改善していきます。
18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	100%	0%	定期的に職員内で行っている。	定期的なモニタリングはお子様の発達に欠かせないものなので、継続して行っています。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせて支援を行っている	100%	0%		ガイドラインに沿った基本活動という形を明確にした支援では行っていません。今後はきちんとした形での活動内容を計画していきます
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100%	0%		今後も専門性を発揮してお子様の支援を継続していきます。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	83%	17%	送迎時に担任の先生と話をし、その日の様子や心配な点、下校時間等の確認を必ず行っている。	利用当日の様子や最近の出来事などの話を聞くことで、お子様が落ち着いて安心して過ごせるように対応しています。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	0%	0%		医療的ケアが必要なお子様の受け入れはしておりません。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	0%	100%		簡単な引継ぎ等ではありますが、利用前にどのような支援を受けていたかは文書でいただくことがありませんでした。今後はもう少し具体的に情報共有を進めていきます。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	0%	100%		引継ぎの方法が統一しておらず、主に保護者からの情報や学校での様子を中心となっていますので、今後は情報提供の仕方を検討していきます。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	0%	100%		研修では対応の仕方や助言を受けているが、特別な連携はありませんので今後は具体的な関わりを検討していきます。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	0%	100%		平日は時間が限られるため、長期休みは外出やイベントへの参加等により交流はできませんでした。今後は可能な限り交流を深め、活動に参加していきます。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	0%	100%		自立支援協議会への参加はまだ不十分ですが、まずは管理責任者を中心に連携をとっていきます。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	83%	17%	連絡帳や送迎時に口頭で細かく伝えている。	利用当日の様子や最近の出来事などの話を伺うことで支援内容を変更したり、常に最新の情報共有するよう努めています。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	0%	100%		ペアレント・トレーニングには十分な時間と計画が必要なので、定期的な取り組みを行うことが難しい状況です。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%	0%		ご質問には十分な説明をおこなっていますが、時間をとって丁寧に話すことができないこともありました。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	17%	83%	お電話や連絡帳に記載されていた場合は、きちんと応じるようにしている。	ご希望の応じて十分な時間をとってご相談に応じることが難しく、対応が不十分な部分があるので今後具体的な対応を検討していきます
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	0%	100%		保護者の就労等の都合により、集まっていたく機会を設けることが困難な状態です。今後はメールやSNSなどを活用して情報共有を進めていきたいと考えています。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	83%	17%	苦情があった場合は事務局へ図具に報告し、迅速に対応するようにしている。	お子様からの苦情や保護者からのご意見に関しては事業所のなかで十分に検討し、連絡帳やお電話で迅速な対応を行っています。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%	0%		今後も継続しては発信していきます。
	35	個人情報に十分注意している	100%	0%		今後も個人情報が漏れないよう厳守していきます。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%	0%		今後もお子様や保護者の気持ちに寄り添った支援を行っていきます。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	17%	83%	商店街のイベントなどに参加するなどして地域住民と関わる機会を作っている。	イベントなど地域にもう少し早めに情報を提供するなどしていきたい。また日常的に商店街への買い物などを通じて、事業所の周知を図りたいです。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	100%	0%		今後も開かれた事業所の活動として十分な周知を継続していきます。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%	0%	年に2回避難訓練を実施し、さらに防災センターにも年に複数回行き、さまざまな災害の模擬体験を通じて防災意識を高めている。	非常災害に地震、自然災害等の緊急避難だけでなく、事業所内での一時避難などを想定して、備蓄品等の見直しを行っています。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100%	0%		今後も研修を継続することで職員のさらなる意識向上をはかっていきます。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	83%	17%		職員間でも虐待防止の研修を行っているが、判断が難しいことがあるので事業所内での共通理解を徹底していきます。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	83%	17%	全職員で共有し、十分気を付けて配慮し対応している。	支援職員が一定の知識を持ちながら対応することで配慮し、安全に過ごせる環境を提供しています。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100%	0%	事業所内に掲示し、全職員で共有している。	事業所内に置いておき、いつでも見られるようにしています。また、他の事業所と情報共有することで未然に防ぐことができます。